

# びわ湖メッセ2017



1年SSクラスが参加

たくさんの刺激を受けた

▲立命館大学にインタビューをする生徒

今回で第20回目を迎えるびわ湖環境メッセの会場には全国から300を超える企業・大学が参加し、来場者との商談が進められていた。参加していた企業は「環境と経済」「持続的な社会」をモットーとした製品や技術、サービスを紹介していた。会場内ではセミナーやプレゼンテーション

10月18日から20日にかけて長浜バイオ大学ドームで「びわ湖環境ビジネスメッセ2017」が開催された。1年SSクラス計40名がスーパースカイエンス・ハイスクール(以下SSH)の一環として参加した。生徒たちは事前に調べた情報をもとに企業の説明を受け、インタビューを行った。今後は5人グループに分かれ、研修内容をまとめて発表の準備にかかる。

展示ブースで生徒たちは企業の理念や製品に施された環境への工夫を学んだ。各グループは企業の方の話聞きながら、事前学習で気になった点をインタビューした。また自転車を使った浄水装置や廃食油をリサイクルして作られた石鹸、エコカーを紹介していただいたり、酵素由来の入浴液や石鹸等の試供品をいただいたりした。

びわ湖環境メッセに参加した赤松歩依さん(1



速報新聞

キマグレ

発行所  
彦根東高等学校

新聞部  
彦根市金亀町4番7号



▲津田君は笑顔でメッセの感想を話した。

ンが行われており、多くの来場者で賑わっていた。展示ブースは水ビジネスエリア、エコプロダクツエリア、廃棄物・リサイクルエリア、スマート社会エリア、GLOBエリア、研究・啓発エリア、ベンチャーエリアの7エリアに分かれて出展されており、特設ゾーンが設けられていた。

「1」は「会場内は思ったよりも明るい雰囲気、どの企業にも質問しに行きやすかったのでホッとした。全国から集まるたくさんの企業に囲まれてたくさんの刺激を受けることができたと思う」と話した。津田浩佑君(1-1)は「いろんな試供品をもらえてとてもうれしかった。いただいたものを大切に使用していきたい」と顔をほころばせた。



▲エスケー石鹸株式会社の石鹸を使うと油性マジックの汚れもすぐに消えた。